

上士幌町 SDGs 未来都市計画

上士幌町

< 目次 >

1 全体計画

1.1 将来ビジョン

- (1) 地域の実態..... 2
- (2) 2030年のあるべき姿..... 5
- (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット..... 7

1.2 自治体 SDGs の推進に資する取組

- (1) 自治体 SDGs の推進に資する取組..... 9
- (2) 情報発信..... 12
- (3) 全体計画の普及展開性..... 12

1.3 推進体制

- (1) 各種計画への反映..... 13
- (2) 行政体内部の執行体制..... 14
- (3) ステークホルダーとの連携..... 15
- (4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等..... 16

1.4 地方創生・地域活性化への貢献..... 17

2 自治体 SDGs モデル事業

- (1) 課題・目標設定と取組の概要..... 18
- (2) 三側面の取組..... 19
- (3) 三側面をつなぐ統合的取組..... 22
- (4) 多様なステークホルダーとの連携..... 27
- (5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施..... 28
- (6) 自治体 SDGs モデル事業の普及展開性..... 29
- (7) スケジュール..... 30

1. 全体計画

1.1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

①地域特性

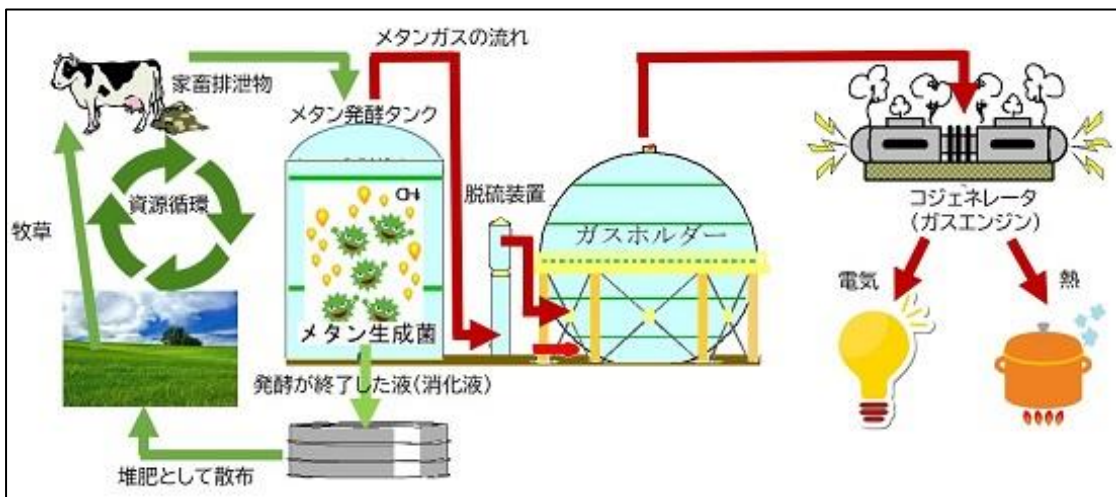
上士幌町は、北海道中央部に位置し、東京都 23 区を超える約 700 km²の広大な面積に人口約 4,980 人、牛約 40,000 頭が暮らし、寒暖差 60℃の厳しい自然環境で、酪農・畑作を中心とした農業を基幹産業とする過疎地域である。

産業別就業人口に占める農業の割合は 30.8%^{※1}を占め、農畜産物生産額は 228 億円で、福井県全体 470 億円の半分を占めるほどで、食料自給率は約 3,500%を誇る。

一方、家畜から排出されるふん尿も重要な資源として活用しており、町内畜産農家と上士幌町農協などの出資で整備したバイオガスプラントにより、ふん尿を発酵させ、液肥化して草地に還元することで、環境に配慮した資源循環型農業を確立している。また、ふん尿の発酵過程で発生するバイオガスで発電した電力を地域内に供給することで、再生可能エネルギーの地産地消を進めており、バイオガスプラント発電によるエネルギー自給率(発電量ベース)は、100%^{※2}と推定される。



※1 2015 年国勢調査 ※2 公共施設・JA 施設・畜産農家・一般家庭の消費電力想定



林業の衰退や旧国鉄士幌線の廃止などで、1955(昭和 30)年の 13,608 人をピークに人口減少・流出が続き、2015(平成 27)年には 4,886 人にまで減少、65 歳以上高齢化率も 35.2%と少子高齢化が進んでいた。

人口減少や少子高齢化に歯止めをかけるため、暮らし、住まい、働く環境の充実を図ることとし、ふるさと寄附金を原資とした給食費を含む認定こども園の保育料 10 年間完全無料化や賃貸住宅の建設費補助制度、農業生産法人の規模拡大、無料職業紹介などに取り組むことにより、第 I 期地方創生(H27～R1)では、人口増 42 人、社会増(転入－転出) 244 人、首都圏からの転入増 118 人のほか、若年層(20～40 歳代)転入者率が7割以上を占めるなどの成果を上げた。

町は、地方創生を加速化させるため、まちづくり会社「(株)生涯活躍のまちかみしほろ」と地域商社「(株)karch(カーチ)」と連携しながら取組を進めており、(株)生涯活躍のまちかみしほろでは、こどもからシニア、主婦、障がい者、外国人など誰もが健康で充実した生活を送ることができるよう、介護人材の育成やコミュニティづくり、人材センターによる仕事・困りごと解決のマッチングのほか、健康ポイント事業による健康増進、生涯学習「かみしほろ塾」などの取組により、人材センターの売上げが対前年度比 2.27 倍に増加するなど、健康や福祉に加え、働きがい、生きがいを包含する「だれもが生涯活躍のまちづくり」を効果的に進めている。

【株式会社 生涯活躍のまち「かみしほろ」】

2017 年度に町、産業、医療、金融機関等の出資で設立。
住民コミュニティの醸成や人材センター、健康づくりなど「だれもが生涯活躍のまちづくり」を推進。

【株式会社 karch(カーチ)】

2018 年度に町、旅行会社、ガス会社、金融機関等の出資で設立。
道の駅の運営、バイオガス発電による地域電力小売事業など地域経済の活性化を推進。

町は、新鮮で美味しい農産物をはじめ、45 年以上の歴史がある熱気球のフェスティバル、旧国鉄土幌線のコンクリートアーチ橋梁群と幻の橋と呼ばれる「タウシュベツ川橋梁」、ぬかびら源泉郷、日本一の広さを誇る公共ナイタイ高原牧場など様々な資源に恵まれており、(株)karch では、ナイタイ高原牧場に開設したナイタイテラスや道の駅の運営、地域資源を活かした商品開発、バイオガス発電の電力小売などで、地域経済を盛り立てている。



【新鮮で美味しい農産物】



【タウシュベツ川橋梁】



【ぬかびら源泉郷】



【ナイタイ高原牧場ナイタイテラス】



【バルーンフェスティバル】



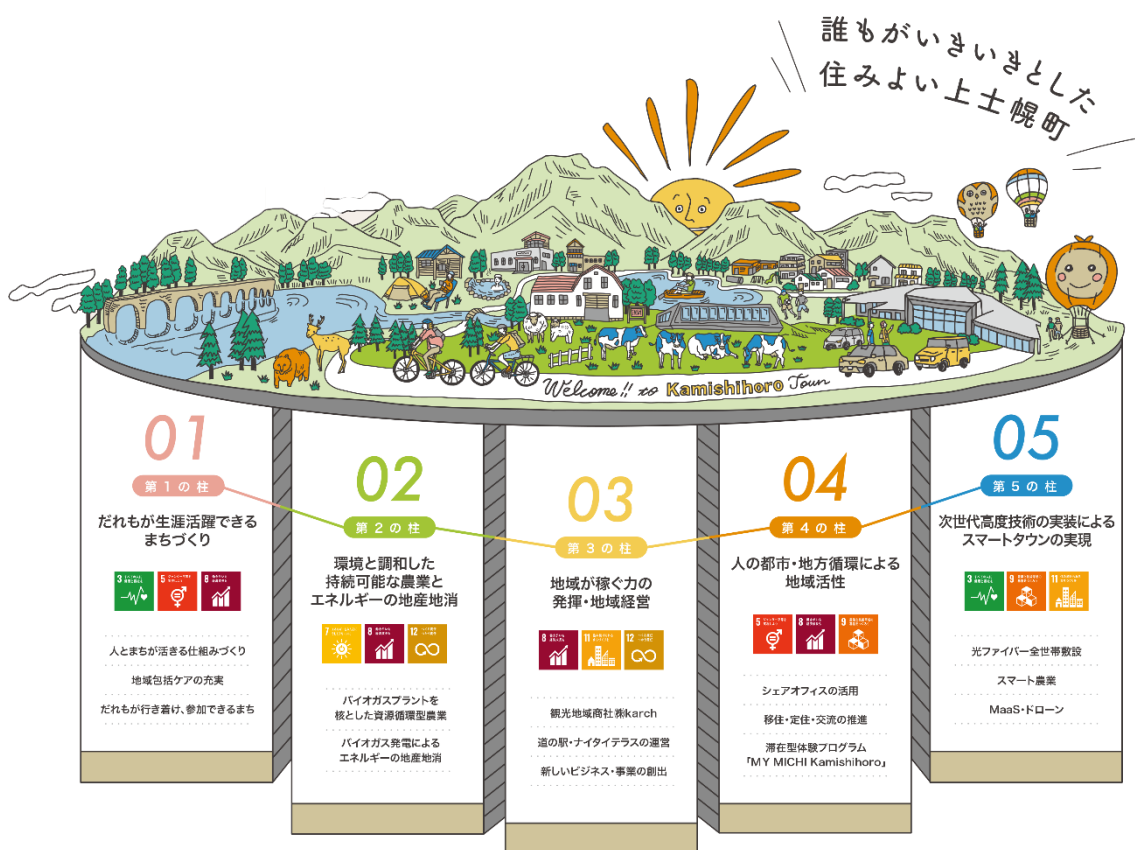
【道の駅かみしほろ】

これまでのまちづくりの取組が評価され、2020(令和2)年10月には、(株)生涯活躍のまちかみしほろと(株)karchと連携したプロジェクトにより「第8回プラチナ大賞優秀賞(統合的地域づくり賞)」を、同年12月には、「第4回ジャパンSDGsアワードSDGs推進副本部長賞(内閣官房長官賞)」を受賞している。

②今後取り組む課題

人口減少や少子高齢化、地域経済の停滞に歯止めをかけることが喫緊の課題であり、Society5.0、カーボンニュートラル、ウィズコロナといった既に動き出している新たな時代を見据え、これまで全国の過疎地域の弱点と捉えられていた医療や福祉、交通や教育など生活における様々な「不便さ」に対し、次世代高度技術を活用して「弱点」を克服しながら、「疎」の空間を逆に強みと捉え、疫病や災害に強い、住民の幸せ本位の地域づくりを進めていく。

また、だれもが生涯活躍のまちの理念のもと、町民一人一人が自ら考え、行動する仕掛けづくりに加え、まちづくりに参画する新たなプレイヤーを創出していくなど、皆が自分ごととして取り組む環境を整えることで、持続可能なまち「かみしほろ」の実現を目指す。



(2) 2030 年のあるべき姿

上士幌町では、持続可能なまちを実現するため、これまで農山村という地域性から食料自給率の向上、環境保全や循環型社会の構築を目指し、家畜ふん尿のリサイクルによる再生可能エネルギー発電と地産地消の取組を実施してきた。また、イノベーションに対する支援、子育て教育に対する投資に加え、住民が生涯にわたって生き生きと活躍する施策が実を結び、半世紀ぶりに人口増を実現した。

今後は、これまで実施してきた取組に SDGs の視点を取り入れ、さらに深化させることで、「まちの価値」を高めていくとともに、町民が一体となって取り組んでいける環境を整えながら、町全体で SDGs のゴール達成に向けて取組を進める。

①人類生存の基盤となる食料とエネルギーが自給されるまち

基幹産業である畑作や酪農を基盤として、食料自給率を維持しながら、畜産バイオマスによる資源循環型農業の推進により、環境に配慮しつつ、貧困や飢餓に強いまちを維持する。

また、バイオガス発電による再生可能エネルギーの地産地消を進めるほか、町の面積の 76%を占める森林は、全町民の呼吸排出量に対して約 100 年分の CO₂ 吸収量を誇ることから、循環期を迎えている一般民有林の更新を計画的に推進していくことで、吸収量をさらに高め、国内におけるカーボンニュートラルを力強く牽引する。

②環境と調和したビジネス展開で強靱な地域・経済が実現するまち

地域商社(株)karch と連携して DMO 事業の展開、ナイトテラス及び道の駅の運営により、主力の観光振興・商品開発で外貨を稼ぎ、雇用の創出や地域経済の活性化を促進する。

畜産バイオマスにより生み出されたクリーンエネルギーを活用し、多くの町内事業者や一般家庭に電力供給していくとともに、引き続きマイクログリッドによる「停電に強いまち」に向けて検討を進める。

資源循環型農業や再生可能エネルギーの地産地消、「道の駅かみしほろ」で展開される食品ロス削減の取組など、SDGs と連動させた体験旅行商品の開発により、地域の価値を体感し学べる新たなビジネスを展開しながら、SDGs の取組を全国に牽引する。

③だれもが生涯活躍のまちづくりにより QOL 向上が図られるまち

まちづくり会社(株)生涯活躍のまちかみしほろと連携して、起業家支援センターを拠点に、住民等地域内外の人々が気軽に集い、困りごとや人材の情報が発掘され、支え合いやコミュニティ活動を活発化する。また、仕事や困りごとと人材のマッチングを促す人材センターの活動を通じ、雇用や生きがい創出するとともに、健康づくりや人材の育成などにも幅広く取り組むことにより、だれもが生涯活躍のまちを後押しし、住民の QOL 向上を図る。

④関係人口の創出・拡大による人材還流と新たな価値が生まれるまち

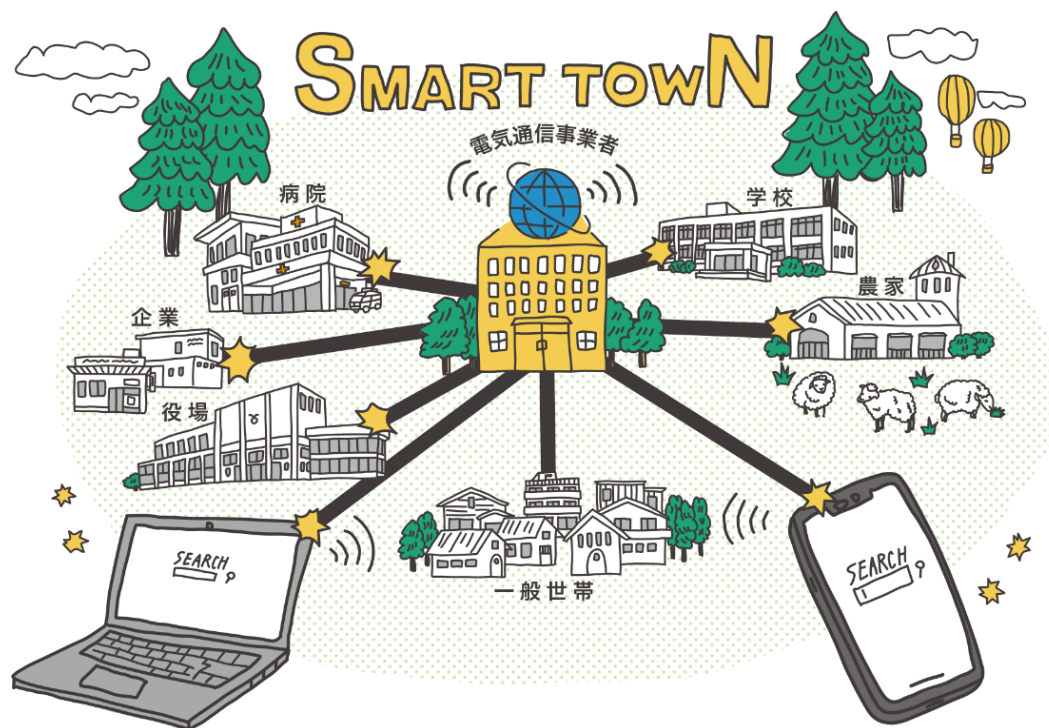
ウィズコロナ時代に対応したシェアオフィスや企業滞在型交流施設を拠点として、都市部企業人がリモートワークやワーケーションを行うとともに、地元事業者や生産者と地域資源を活かした商品開発、販路の開拓が行われるなど、新たなビジネスが展開される。

生涯活躍のまちづくりで行われているコミュニティの場や「かみしほろ塾」などで、都市部人材のスキルを活かした人材育成や地域住民との交流を通じ、地域内外の人材還流が図られ、コロナ禍における地方の「疎」を活かした働き方や暮らし方の提供、コミュニティづくり、人材の育成など新たな価値が生まれる。

⑤スマートタウンの構築が地域内外の幸せを後押しするまち

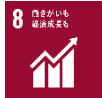

上士幌町におけるスマートタウンの姿は、ICT、IoT、AI、ロボットなど次世代高度技術が医療・福祉、交通、教育など住民生活をはじめ、農業や観光・商工業、産業、防災・減災など様々な分野に社会実装させ、住民の利便性向上や産業振興が図られる地域社会である。

スマートタウンの構築により、それぞれの分野で効果が発揮されるだけでなく、例えば、電気自動車を活用した地域住民 MaaS の展開では、シニアの移動を活発化させることに加え、コミュニティ活動への参加など生涯活躍につながるるとともに、二酸化炭素の排出抑制にも寄与し、さらには、人材センターにおけるマッチングアプリと組み合わせることで地域経済を活性化させるなど、経済・社会・環境面の取組が相乗効果を発揮し、地域全体が恩恵を受けながら具体的な取組を進めることで、生きがいを創出する。





(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 3 8, 5	指標: 新規雇用人数(無料職業紹介所による雇用)	
	現在(2021年1月): 12人	2030年: 100人(累計)
 9, 1	指標: 観光拠点施設(道の駅・ナイトテラス)での一人当たりの観光消費額	
	現在(2019年1月): 600円	2030年: 950円



地域経済の活性化のためには、雇用の創出が不可欠であることから、無料職業紹介所による雇用人数と、外貨獲得の指標として観光消費額を設定。

(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 3, 8	指標: 人口の社会増加	
	現在(2021年1月): 43人(2020年1年間)	2030年: 143人(累計)
 11, 3	指標: 目標人口	
	現在(2021年1月): 4,964人	2030年: 4,460人

地域社会を維持するためには、一定の人口規模や若年世代の維持が必要であり、子育てや教育の充実をはじめ、性別に関わらず安心して働くことができる環境づくりを通じた指標として設定。

(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 7, 1 7, 2	指標:再生可能エネルギー電力契約件数	
	現在(2021年1月): 342件	2030年: 776件
 15, 1	指標:生乳生産量	
	現在(2021年1月): 11.7万トン	2030年: 13万トン以上

畜産バイオマスを核としたふん尿の液肥化による資源循環型農業の推進と、発電された電力小売による再生可能エネルギーの地産地消を指標として設定。

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組

①人類生存の基盤となる食料とエネルギーが自給されるまち

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 15, 1	指標: バイオガスプラント導入による持続的農業の推進	
	現在(2021年1月): 5か所	2023年: 6か所

【資源循環型農業の推進】

家畜から排出されるふん尿を有効な資源として捉え、町内畜産農家と上士幌町農協などの出資によりバイオガスプラントを整備し、ふん尿を発酵させ、液肥化して草地に還元することで、環境に配慮した資源循環型農業をさらに進める。

【再生可能エネルギーの地産地消】

ふん尿の発酵の過程で発生するバイオガスで発電し、地域商社による電力小売により、クリーンエネルギーの供給と再生可能エネルギーの地産地消により、環境と経済循環型の地域社会づくりを進める。

②環境と調和したビジネス展開で強靱な地域・経済が実現するまち

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 9, 1	指標: 観光入込客数	
	現在(2018年8月): 440千人	2023年: 940千人

【観光振興・商品開発】

(株)karchが、日本一の広さを誇る公共ナイタイ高原牧場の景観を活かした「ナイタイテラス」を運営し、地元食材を使ったフードメニューの展開や十勝産商品を販売するほか、ナイトバスツアー、じゃがいも掘り・そば打ち体験といった体験型旅行商品の開発を行っている。

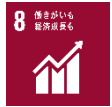
【道の駅を拠点とした多機能化】

地域内外の人々の休憩、飲食、体験、交流の拠点である「道の駅かみしほろ」を活かし、集客や地場商品の販売促進を図るとともに、道の駅内に無料職業紹介や移住交流の窓口を設けることにより、町のゲートウェイ機能を活かした地域経営を進める。

【SDGs と連動した取組】

「かみしほろ電力」が、バイオガス発電を活用した電力の小売事業を進め、再生可能エネルギーの地産地消を進めているほか、「道の駅かみしほろ」で展開される食品ロスの削減、SDGs と連動させた体験旅行商品の開発により、地域の価値を体感し学べる新たな観光ビジネスを展開する。

③だれもが生涯活躍のまちづくりにより QOL 向上が図られるまち

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 5	指標: 人材センター会員数	
	現在(2021年1月): 87人	2023年: 214人

【地域コミュニティの醸成】

互助の土壤をはじめ、課題解決の担い手の発掘や育成、生涯活躍の機会を提供することにより、地域コミュニティの醸成を図る。

(1) かみしほろスマイルプロジェクト

産前産後期の母親と赤ちゃんが気軽に立ち寄れる居場所づくりを行うとともに、出生数の少ない本町の子育てに関する悩みや不安を抱えないよう、保健士と助産師が中心となって母親同士の交流を図り、仲間づくりを行う。

(2) まちまるごとチャレンジ

地域住民の「やってみたい」「あったらいいな」をカタチにするため、生活支援コーディネーターが支援を行い、地域が必要とすることにチャレンジする。

(3) ハレタ企画

(株)生涯活躍のまちかみしほろが町民主体のイベントを企画・実施することにより、出店する町民の自己実現を支援するとともに、自分自身の表現が他者の楽しみにつながり、そこから対価が得られる生業体験の場を提供する。

【かみしほろ人材センター】

町民の生きがいづくりを促進するため、シルバー人材センター機能を有する「かみしほろ人材センター」を設置し、高齢者等の労働へのニーズと町内の困りごととのマッチングを行う。

【生きがいづくりのトータルサポート】

(1) 起業塾

受講生が事業を実現させるため、専門家による事業計画の作成支援や継続的な助言を行うことで、本町における新たな起業を促進する。

(2) 健康ポイント事業

希望する町民に活動量計を貸与し、日々の歩数や体組成を定期的に計測することにより、町民の健康づくりを促進するとともに、獲得したポイント数に応じて、町内施設で使える商品券との交換を可能にすることで、地域経済の活性化にも寄与する。

(3) MYMICHY プロジェクト

都市部の若者が、町内で「遊ぶ」「学ぶ」「働く」を1か月間体験することにより、町民との様々な出会いを通じた本町独自による関係人口を獲得するとともに、将来を見据えた定住のきっかけづくりに取り組む。

(遊ぶ) ネイチャートレイルや釣りなど本町の大自然を感じるプログラム

(学ぶ) 町民の生き方や考え方に触れることで自分の生き方を見つめ直すプログラム

(働く) 町の産業に触れたり、地域の困りごとや課題を解決するプログラム

※2030年のあるべき姿のうち、「④関係人口の創出・拡大による人材還流と新たな価値が生まれ出されるまち」及び「⑤スマートタウンの構築が地域内外の幸せを後押しするまち」については、自治体 SDGs モデル事業により推進(後掲)。

(2)情報発信

(域内向け)

SDGs の取組を体系的に学び、ゴールに向けた自分ごととしての主体的な取組が図られるよう、こども園、小学校、中学校、高校など、それぞれの理解力に応じた出前授業を実施するとともに、道内 SDGs 未来都市と連携したフォーラムの開催など、SDGs の普及に向けた取組を実施する。

また、ユネスコスクールの拡大と ESD 推進の過程において、児童生徒のみならず、保護者、教育関係者にも広く発信していくほか、町の広報誌をはじめ、町内の様々な情報媒体を活用した意識醸成に加え、「かみしほろ塾」における SDGs 講座の開設など、様々な機会を通じて町民の理解促進を図る。

(域外向け(国内))

町内の SDGs に関する取組について、ホームページや SNS など様々な情報媒体を活用し発信していくとともに、国の「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」への参画、ジャパン SDGs アワード選定都市及び SDGs 未来都市との連携・協働により、取組状況を広く発信していく。

(海外向け)

国際的なネットワークを有する JICA 北海道や外務省との連携に加え、国際フォーラム等での情報発信を展開するとともに、これまで来ていただいた JICA 訓練生との縁を活かしながら、交流という切り口で発信力を高めるなど、世界に向けた発信の機会を増やしていく。

(3)全体計画の普及展開性

(他の地域への普及展開性)

人口減少や少子高齢化、若者流出、それに伴う地域経済の疲弊は、全国の特に過疎といわれている地域の共通した課題である。

首都圏から遠く離れ、自然環境が厳しく、小規模過疎の課題先進地であった上士幌町においても、盤石な農業の強みを基盤に、家畜ふん尿を有効な資源として活用することで、クリーンで安定的な食糧・エネルギーの供給を実現している。

また、地域商社による SDGs と連動した新たな観光スタイルの提案や、まちづくり会社における生涯活躍のまちづくりに向けた取組により、雇用を促進し、人口増加に転じるなど、こうした取組を積極的に他地域へ発信していくことで、全国自治体での普及を進める。

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映

①上士幌町総合計画(2022～2031年度)

2022(令和4)年度を始期とする「第6期総合計画」を本年度中に策定する。

基本構想(将来像、政策の方向性)、基本計画(施策体系)、実施計画(具体的な事業)を定める総合計画において、SDGsの理念や方向性を取り入れ、関係者間における共通認識を持たせることで、政策目標への理解度向上、効果的な連携の促進を図る。

②上士幌町総合戦略(2020～2024年度)

地方創生に向けた基本的な考え方と目標達成のための施策、重要行政評価指標を定める総合戦略において、SDGsの視点を戦略全体に取り入れながら、農業、教育、生涯活躍のまちづくりなど、個別事業に重点的に反映させている。

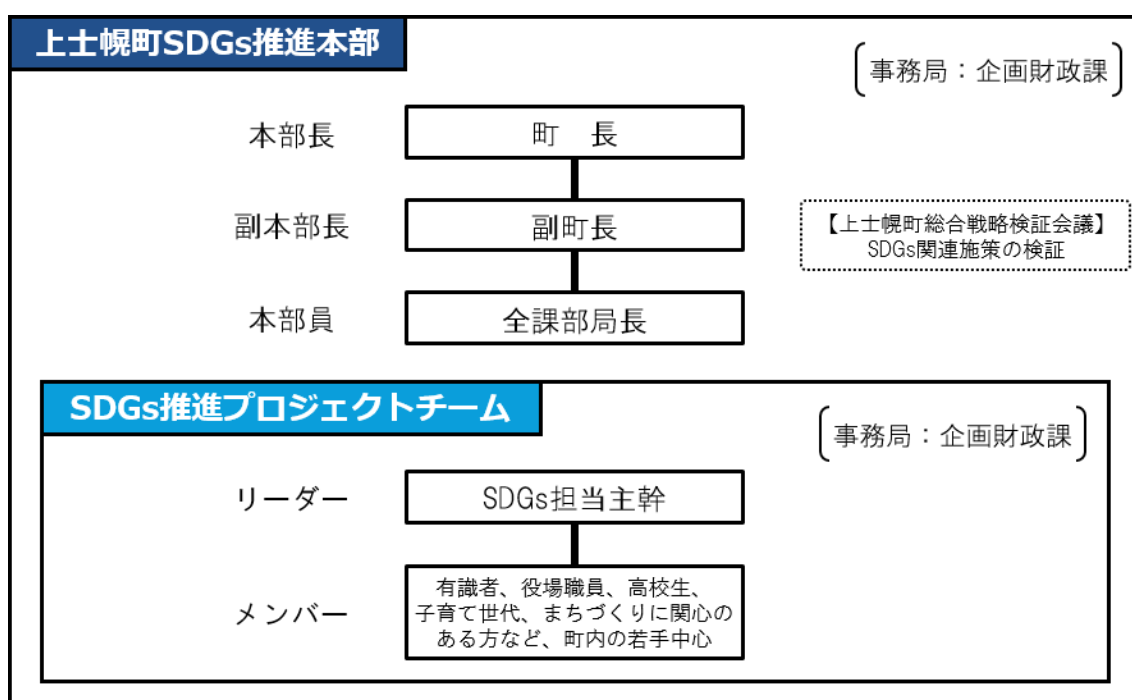
③その他の個別計画

個別計画の策定・改定時に合わせ、SDGsの理念やSDGsと当該計画との関連性について記載していく。

(2) 行政体内部の執行体制

SDGs の目標・ターゲットの達成に向けて、本町における取組を総合的かつ効果的に推進するため、町長を本部長、副町長及び全課部局長を本部員とする「上士幌町 SDGs 推進本部」を設置するとともに、具体的な取組の検討実施にあたり、有識者をはじめ、役場職員、高校生、子育て世代、まちづくりに関心のある方など、町内の若手メンバーで構成する「SDGs 推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、町全体で SDGs の推進に取り組む。

また、「上士幌町総合戦略検証会議」において、毎年度 SDGs 関連施策の検証を行うことで、計画的な推進に努める。



(3) ステークホルダーとの連携

①域内外の主体

(株)生涯活躍のまちかみしほろと(株)karch の二つの株式会社が、住民や団体、事業者と行政をつなぐ「ハブ」としての役割を果たすことで、地域全体で有機的なつながりを形成する。

SDGs ツアーを例示すると、(株)karch が主体となり、再生可能エネルギーの地産地消に関連する事業者との連携を図るとともに、(株)生涯活躍のまちかみしほろとの連携のもと、人材育成を進めていくことで、地域全体で SDGs の推進を目指す。

また、地域住民一人一人が SDGs を意識し、主体的な活動が広まるよう、道内 ESD の推進拠点である「北海道環境パートナーシップオフィス／北海道地方 ESD 活動支援センター」と連携し、必要に応じて助言や協力を得ながら普及啓発を図る。

②国内の自治体

SDGs 未来都市に選定されている北海道や札幌市、ニセコ町、下川町をはじめ、ジャパン SDGs アワード選定都市や SDGs 推進に積極的に取り組む全国の自治体と連携し、SDGs の普及に資する取組を検討・実施する。

資源循環型農業や再生可能エネルギーの地産地消の基盤となるバイオガスプラントの利用促進や食料自給、電力の融通により、地域全体としてのレジリエンスを高める。

また、前述の SDGs ツアーを全国の SDGs 推進自治体に発信するとともに、都市部若者や企業との関係づくりを進めるモデル事業「MYMICHII プロジェクト」と連動させることで、地域住民・事業者との新たな交流やビジネスの創出を目指す。

③海外の主体

国際交流推進員や外国語アシスタント、英語指導助手などを介した国際交流や JICA などとの連携をきっかけに、教育の現場から SDGs 推進の輪を広げていくことを目指す。

(4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

①ステークホルダーである「まちづくり会社」と「地域商社」の経営基盤強化

本町における取組は、(株)生涯活躍のまちかみしほろと(株)karch の二つの株式会社との緊密な連携・協働により推進するものであることから、円滑な取組の実施のためには、両株式会社の更なる経営基盤の強化が必要である。

②SDGs 推進に向けた財源の確保と投資機運の醸成

道内 SDGs 未来都市との連携のもと、SDGs に取り組む企業・団体等を登録・認証する制度の導入検討を進めるとともに、町における SDGs 施策と企業版ふるさと納税との連動に加え、SDGs の推進に特化した投資機運の醸成に資する新たな仕組みづくりを検討する。

③SDGs 人材の育成

まちの将来を支えるには人材の育成が必要不可欠であることから、町内の若手メンバーで構成するプロジェクトチームを機能的に展開していくことで、自発的な取組を促し、まちづくりに携わる新たなプレイヤーを創出する。

1.4 地方創生・地域活性化への貢献

本計画では、これまで実施してきた取組に SDGs の視点を取り入れ、さらに深化させることで、「まちの価値」を高めていくとともに、町民が一体となって取り組む環境を整えながら、町全体で SDGs のゴール達成に向けて取組を進めることとしている。

現在、策定中の「上士幌町総合計画」では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うライフスタイル・ビジネススタイルの変化への対応とともに、社会変革への挑戦として、DX の推進、カーボンニュートラルの実現に加え、町政推進の基軸として SDGs を位置づけることとしている。

全国においても、同様の課題を抱える小規模自治体は少なくないことから、本町における次世代高度技術を活用した弱点の克服、人と投資を呼び込む施策を着実に推進し、全国のモデルケースとなることにより、他地域への横展開、地方創生・地域活性化に貢献するものである。

2. 自治体 SDGs モデル事業

(1) 課題・目標設定と取組の概要

自治体 SDGs モデル事業名：

「スマートタウンで“弱点”転変！かみしほろ幸せ循環」プロジェクト

①課題・目標設定

ゴール9、ターゲット1

ゴール11、ターゲット3

ゴール7 ターゲット2



基幹産業の農業と技術革新を基盤として、循環型農業と再生可能エネルギーの地産地消、域内 DX の推進により、だれもが生きがいを持ち、働けるまちづくりを進める。


②取組の概要

次世代高度技術を活用し、スマートタウンの構築を進め、住民生活の利便性を向上することで、だれもが生涯活躍のまちづくりを後押し。さらに、再生可能エネルギーの地産地消、EV による空港直行便の導入で関係人口を創出し、地域経済の活性化につなげる。



(2) 三側面の取組

①経済面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 9, 1	指標: シェアオフィス利用企業数	
	現在(2021年1月): 8社	2023年: 37社

①-1 ワークेशनパックの開発


カーシェアリングやマイクロモビリティを活用した MaaS による「移動」、ビジネスホテルや企業滞在型交流施設と連携した「宿泊」、テレワーク環境の整った「かみしほろシェア OFFICE」、これらがセットとなったサブスクモデルのワークेशनパックや、一気通貫の予約システムを構築し、ワークेशन滞在者の還流、ビジネスモデルの創出を図る。

①-2 都市部企業とのビジネスマッチング

2020年に整備したシェアオフィスや2021年に整備予定の企業滞在型交流施設を拠点に、都市部企業のワークेशनや副業・兼業希望者を呼び込み、町内事業者・生産者とのビジネスマッチングにより地域経済の活性化を図る。



②社会面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11, 3	指標: 高齢者のタブレット利用者率	
	現在(2021年1月): 0%	2023年: 37%

②-1 域内DXの推進

高齢者向けタブレット端末により、福祉バスの予約、ビデオ通話による保健師とのコミュニケーション、一斉情報配信による生活支援とともに、全世代向けにAIチャットボットを整備し、24時間、行政と住民双方向のコミュニケーション効果の最大化を図る。

②-2 住民向けMaaSの実証

ICTを活用し、農村部におけるデマンド運行システムを構築するとともに、高齢者等福祉バスへの一般の方の混乗利用を開始するなど、2022年の事業化を見据えたMaaSの実証を行うことで、住民生活における移動の利便性向上を図る。



③環境面の取組

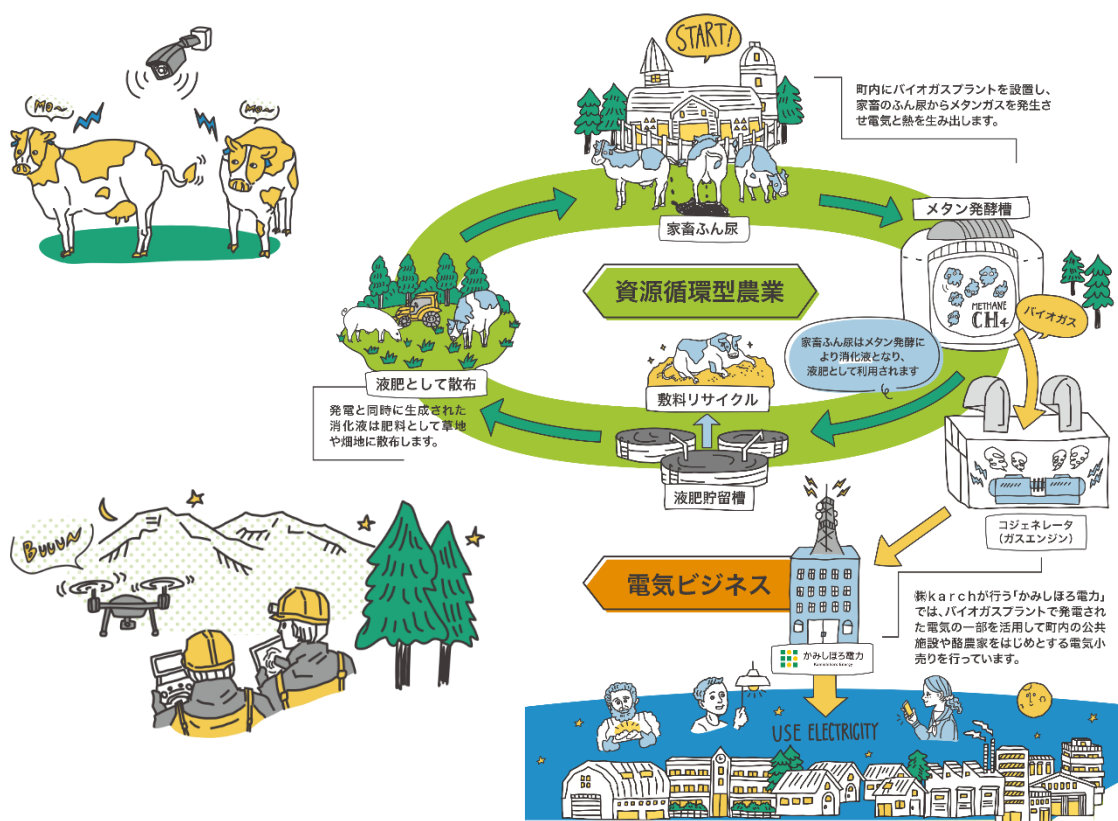
ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 7, 2	指標:再生可能エネルギー電力契約件数	
	現在(2021年1月): 342件	2023年: 559件

③-1 再生可能エネルギーの地産地消

家畜ふん尿を資源としたバイオガス発電による地域電力を活用し、「かみしほろ電力」の電力小売により、再生可能エネルギーの地産地消を推進する。

③-2 ドローン配送とEVによる空港直行便の実証

これまで、買い物アプリと連動した自動運転バスによる貨客混載の実証を進めてきたが、買い物支援を更に加速させるため、ドローンによる商品配送の実用化に向けた実証を行う。また、経済面の取組に記載の「ワーケーションパック」の中で、バイオガス発電による電力を活用したEVの空港直行便を運行させ、カーボンニュートラルの実現につなげる。



(3) 三側面をつなぐ統合的取組

(3) - 1 統合的取組の事業

統合的取組の事業名:「かみしほろ SDGs 推進プラットフォーム」プロジェクト

(取組概要)

SDGs の達成に向け、地域が一体となって取組を進めるため、行政と事業者・団体等をつなぐプラットフォームを構築し、意識の醸成と情報の共有化を図りながら具体的な活動を促進していくとともに、SDGs 人材の育成、ツアーの開発・実施を通じた域内外への取組の発信により、人や投資を呼び込むことで、統合的取組の実効性を高める。

(統合的取組による全体最適化の概要及びその過程による工夫)

【プロジェクトの内容】

- (1) SDGs 推進プラットフォームの構築
 - ・上士幌町 SDGs 推進本部
SDGs の達成に向けた取組を、本町において総合的かつ効果的に推進するため設置。
 - ・SDGs 推進プロジェクトチーム
SDGs の推進に向けて、具体的な取組を検討・実施するため設置。
- (2) 住民理解の促進及び人材の育成
 - ・日常生活における行動や町内にある施設等を SDGs の 17 のゴールに紐づけるとともに、皆が考える未来のかたち(夢)を可視化。
 - ・普及啓発資材の作成。
 - ・町民向けファシリテーター養成講座の開設。
 - ・SDGs フィールドワーク(ツアー・キャンプ等)の実施。
 - ・こども園、小学校、中学校、高校など、理解力に応じた SDGs 出前授業の実施。
 - ・「かみしほろ塾」における SDGs 講座の開催。
- (3) 発信力の強化と投資の呼び込み
 - ・広報誌をはじめ、様々な情報媒体を活用しながら、町の取組を域内外に発信。
 - ・道内 SDGs 未来都市との連携のもと、SDGs に取り組む企業・団体等を登録・認証する制度の導入を検討。
 - ・町における SDGs 施策と企業版ふるさと納税との連動に加え、SDGs の推進に特化した投資機運を醸成する新たな仕組みづくりを検討。
 - ・国際的なネットワークを有する JICA 北海道等と連携し、取組状況を世界へ発信。

SDGs 推進プラットフォームを基盤として、SDGs に係る地域全体の取組をパッケージとして PR しながら、人と投資を呼び込み、統合的好循環を生み出す。

- ① これまで、まちづくり会社が担ってきた「だれもが生涯活躍のまちづくり」、地域商社が担ってきた「環境と調和したビジネス展開」が、今後実施していく「シェアオフィスと企業滞在型交流施設を拠点とした企業人との関係づくり」により、さらに推進。
- ② 次世代高度技術を活用したスマートタウンの構築により、Society5.0 やカーボンニュートラルの実現、ウィズコロナ時代に対応。
- ③ まちの将来を支える人材育成として、町内の若手メンバーで構成するプロジェクトチームを機能的に展開していくことで、自発的な取組を促し、まちづくりに携わる新たなプレイヤーを創出。
- ④ SDGs ツアーにおいて、研修等で養成した町民ガイドが視察や学びの対応を行い、域内外への取組の発信から人や投資を呼びこむことで、統合的取組の実効性を高め、全体の最適化を図る。

(3) - 2 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等（新たに創出される価値）

①経済⇔環境

（経済→環境）

KPI(環境面における相乗効果等)	
指標:再生可能エネルギー電力契約件数	
現在(2021年1月): 342件	2023年: 599件

「かみしほろ SDGs プラットフォーム」プロジェクトにより、(株)karch による再生可能エネルギーの地産地消の取組価値が地域内外に浸透し、電力契約件数が増加することで、再生可能エネルギーの地産地消が促進される。

（環境→経済）

KPI（経済面における相乗効果等）	
指標:都市部企業とのビジネスマッチング数	
現在(2021年1月): 0件	2023年: 7件

「かみしほろ SDGs プラットフォーム」プロジェクトにより、域内で産出されたクリーン電力を活用したEVによる空港直行便をワーケーションパックに組み込むことで、アクセスの向上によるリモートワーク企業の増加が図られるとともに、都市部企業と町内事業者・生産者とのビジネスマッチングの促進につながり、地域経済の活性化が図られる。

② 経済⇄社会

(経済→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 起業・コミュニティづくりの拠点(hareta)への集客数	
現在(2021年1月): 2,317人	2023年: 4,000人

「かみしほろ SDGs プラットフォーム」プロジェクトにより、ワーケーションで来訪した企業人と地域住民をつなげ、地域内外の人々が集うコミュニティづくりの拠点「hareta」におけるマッチングシステムを活かし、双方の生きがいや働きがいを創出するとともに、町内事業者・生産者とのビジネスマッチングにより企業投資を呼び込み、スマートタウンの早期構築につなげる。

(社会→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 人材センターの業務受注件数	
現在(2021年1月): 288件	2023年: 1,088件

「かみしほろ SDGs プラットフォーム」プロジェクトにより、生涯活躍のまちづくりの中で展開されているコミュニティづくりを通じ、地域の困りごとや仕事と、それを解決できる人材が掘り起こされ、それを人材センターがマッチングしていくことで、地域経済が循環する仕組みを構築する。

③ 社会⇄環境

(社会→環境)

KPI（環境面における相乗効果等）	
指標：SDGs に示される 169 のターゲットに関する取組数	
現在(2021 年1月)： 2件	2023 年： 14 件

「かみしほろ SDGs プラットフォーム」プロジェクトにより、町民理解が促進され、SDGs 人材の育成が図られていくことで、個々の環境意識が向上し、SDGs に資する自発的な行動を促進する。また、域外からの SDGs ツアー参加者にも同様の効果が図られることで、本町だけでなく、他地域においても SDGs の推進につながる。

(環境→社会)

KPI（社会面における相乗効果等）	
指標：次世代高度技術の社会実装項目	
現在(2021 年1月)： 10 項目	2023 年： 26 項目

「かみしほろ SDGs プラットフォーム」プロジェクトにより、カーボンニュートラルにつながるドローン配送と EV による空港直行便を実装化することで、買い物支援に加え、環境に配慮した移動の利便性向上が図られ、シニアの移動が活発化するなど、生涯活躍のまちづくりを後押しする。

(4) 多様なステークホルダーとの連携

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
(株)生涯活躍のまち かみしほろ	生涯活躍のまちづくりにおける上士幌町とのパートナーで、コミュニティづくり(「スマイルプロジェクト」、「まちまるごとチャレンジ」)、人材育成(「起業塾」)、健康づくり(「健康ポイント事業」)、関係人口の創出・拡大(「MY-MICHI プロジェクト」)、人材センターを運営し、地域包括ケアの充実にも参画し、関係団体、住民とのハブの役割を果たす。
(株)karch	地域経済の活性化における上士幌町とのパートナーで、観光施設の運営のほか、DMO 事業、地域資源を活用した商品開発のほか、「かみしほろ電力」として再生可能エネルギーの地産地消の推進、新たな観光スタイルとして SDGs ツアーを企画運営するなど、生涯活躍のまち「かみしほろ」と同様、関係団体、住民とのハブの役割を果たす。
イノベーションチャレンジ 実行委員会	自治体 SDGs モデル事業におけるスマートタウンの実現に向けた官民協働の実動組織で、2018 年度から、MaaS や自動運転バスによる移動の利便性向上や買い物支援の実証実験、ドローンを活用した山岳救助コンテストを実施しており、今後の実装に向けて地域事業者、住民のほか、ワーケーション等来訪者とともにサービス開発を担う役割を果たす。

(5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

(事業スキーム)

SDGs の目標・ターゲットの達成に向けて、本町における取組を総合的かつ効果的に推進する「上士幌町 SDGs 推進本部」を中心に、町民の若手メンバーで構成する「SDGs 推進プロジェクトチーム」と(株)生涯活躍のまちかみしほろ、(株)karch との連携・協働により具体的な事業を展開していくとともに、実施した取組の検証・改善を「上士幌町総合戦略検証会議」が担うことで、「かみしほろ SDGs 推進プラットフォーム」を形成する。

プラットフォームのもと、ESG 投資と域内循環を推進するとともに、SDGs 人材の育成、SDGs ツアーの開発・実施を通じ、全国に地域 SDGs の取組を PRしながら、人と投資を呼び込み、スマートタウンの構築・推進を図ることで、持続可能なまち「かみしほろ」を実現する。



(将来的な自走に向けた取組)

道内 SDGs 未来都市との連携のもと、SDGs に取り組む企業・団体等を登録・認証する制度の導入検討を進めるほか、町における SDGs 施策と企業版ふるさと納税との運動に加え、地域金融機関と連携し、ESG 投資を醸成する新たな仕組みの構築を検討していくとともに、まちの将来を支える人材を育成するため、具体的な取組を行うプロジェクトチームを機能的に展開させていくことで、自発的な取組を促し、まちづくりに携わる新たなプレイヤーを創出することで、自走できる体制を確立する。

(6)自治体SDGsモデル事業の普及展開性

全国の地方都市においては、以前から住民の移動手段の確保や利便性の向上が課題であるほか、Society5.0 や今後のポストコロナ時代を見据えた次世代高度技術の社会実装によるスマートタウンの構築は、福祉や生活の利便性、働き方など、地方の優位性を高めながら、住民の幸福を支える有効な手段と認識している。

庁内に、専門部署として ICT 推進室を設け、町内外のステークホルダーと連携しながら、関係人口の創出・拡大、スマートタウンの構築を進めており、ウィズコロナ時代に即した働き方や暮らしの提案など、経済・社会・環境面から統合的に SDGs を推進していることは、全国小規模自治体のロールモデルになりうると思われる。

(7) スケジュール

	取組名	2021 年度						2022 年度	2023 年度
		9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月		
統合	・「かみしほろ SDGs プラットフォーム」プロジェクト	推進本部・プロジェクトチームの運営						運営	運営
		各種取組の検討・取りまとめ(～11 月)			啓発資材の制作・人材育成(～3 月)			普及啓発・人材育成	普及啓発・人材育成
		SDGs フィールドワーク(～11 月)			SDGs ツア-造成に向けた検討(～3 月)			商品化・ツア-実施	商品化・ツア-実施
		SDGs 登録認証制度等投資促進に向けた検討(～3 月)						実施	実施
経済	・ワーケーションパックの開発 ・都市部企業との ビジネスマッチング	予約システム実証・EV 直行便(～9 月)			結果検証(～3 月)			運用	運用
		兼業・副業希望調査(～10 月)			町内事業者・生産者とのマッチング(～3 月)			マッチング展開 ビジネス創出・拡大	マッチング展開 ビジネス創出・拡大
社会	・域内 DX の推進 (一斉情報配信システム) (AI チャットボット) ・住民向け MaaS の実証	運用開始/使用サポート(4 月～)						運用	運用
		調査・FAQ 作成(～9 月)		データ作成・運用テスト(9 月～)		運用開始(11 月～)		機能拡張	機能拡張
		調査設計(～9 月)		実証(10～12 月)		結果検証(1 月～)		運用	運用
環境	・再生可能エネルギーの 地産地消 ・ドローン配送と EV に よる空港直行便の実証	かみしほろ電力システムの運用(～3 月)						運用	運用
		供給先拡大に向けた普及啓発(～3 月)						普及啓発	普及啓発
		実施設計(～9 月)		実証(10 月)		結果検証(～3 月)		実装に向けた検討	実装に向けた検討

上士幌町 SDGs 未来都市計画

令和3年8月 第一版 策定